

平成20年4月22日

照会先：厚生労働省健康局結核感染症課

感染症情報管理室長：難波（内線2374）

担当：梅田（内線2376）

直通：03-3595-2257

## 海外で注意すべき感染症について -大型連休（いわゆるゴールデンウィーク）を前にして-

4月26日から5月6日までの期間（大型連休、いわゆるゴールデンウィーク）中は、海外へ渡航される方も多いことから、安全で快適に旅行し、帰国するために、現在、海外で注意すべき感染症について情報提供します。

特に、鳥インフルエンザの家きん等での発生が世界的に拡大し、ヒトでの発症事例も増加しておりますので、あらためて注意が必要です。

### 1 鳥インフルエンザ

鳥インフルエンザ(H5N1)は、東南アジアから欧州、アフリカと拡大し、ヒトへの感染事例も増加しています。2003年（平成15年）11月以降、現在までに、世界で378名の発症事例（うち死亡者数238人）が報告されています。

一般的に感染した鳥と濃厚に接触した場合にヒトが感染します。生きた鳥が売られている市場や養鶏場にむやみに近寄らないようにするとともに、手洗いやうがいの励行に心がけましょう。

また、各検疫所においてリーフレットの配布等により各国の発生状況について情報提供する（別紙1）とともに健康相談にも応じておりますので、渡航の際の詳しい情報を入手したい場合や、帰国時に体調等に不安を生じた場合にはご相談下さい。

### 2 狂犬病

狂犬病は、犬だけではなく、他の哺乳動物（ネコ、アライグマ、キツネ、スカンク、コウモリなど）からも感染し、発病すると有効な治療方法はなく、ほぼ100%の方が亡くなります。我が国では昭和33年以降国内での発生はみられません。一昨年11月には、海外で犬に咬まれて狂犬病に感染し、日本国内で発病する事例（輸入感染症例）が2例続きました。海外では犬をはじめとす

る野生動物との接触を避けることが大切です。また、万が一、犬などの動物に咬まれた場合は、すぐに傷口を石けんと水でよく洗い、医療機関で、できるだけ早く傷の処置と狂犬病ワクチンを接種してください。また、帰国時には検疫所に申し出てください（別紙2）。

### 3 一般的に海外で注意しなければならない感染症（別紙3）

渡航先（国および地域）や行動内容によって、罹患する可能性のある感染症は大きく異なりますが、最も多いのは食べ物や水を介した消化器系の感染症です。

#### （1）食べ物、水を介した感染症

A型肝炎、E型肝炎、コレラなどは、発展途上地域では広く発生する感染症です。生水・氷・サラダ・生の魚介類等の飲食は避けるようにしてください。また、E型肝炎は近年、米国、ヨーロッパなどの先進各国でも加熱が不十分な生肉の摂取による散発的な発生例がみられますので注意してください。

ノロウイルスはカキなどの貝類による食中毒の原因になるほか、感染したヒトの糞便や嘔吐物、あるいはそれらが乾燥したのから出る塵埃を介して経口感染します。ノロウイルスによる集団感染は世界各地で散発的に発生しています。

#### （2）蚊を介した感染症

マラリア、デング熱は熱帯・亜熱帯地域で広く流行している感染症です。

マラリアは全世界で年間3億～5億人の患者、100万人以上の死者が報告されています。デング熱は通年、全世界で年間数千万人の患者が発生しており、昨年以降さらに流行地域が拡大しています。

黄熱は、熱帯アフリカ、中南米で流行している感染症です。昨年末から南米でサルとヒトの間で流行が拡大し、死亡者（ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンで約30名）が出ています。

ウエストナイル熱は、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央・西アジアなどの広い地域で流行している感染症ですが、1999年に米国で発生し、またたく間に北米に拡大しました。昨年は、米国で感染者3,000名以上、100名以上の死亡者が確認されています。蚊を介してヒトに感染します。

予防法として、長袖・長ズボン着用や虫除けスプレーなど、蚊に刺されな

いたための対策が必要です。

なお、各検疫所ではポスターの掲示等による注意喚起及び帰国時の健康相談を実施しています。（別紙4）。

#### 4 正しい予防知識（別紙5）

海外で感染症にかからないようにするためには、感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけることが必要です。特に、飲料水、虫刺され（蚊やダニなど）、動物との接触には注意が必要です。

感染症には潜伏期間があり、帰国後しばらく経過してから、具合が悪くなる場合があります。その際は早急に医療機関を受診し、渡航先、滞在期間を必ず申し出ることが重要です。

空港や港の検疫所では健康相談を行っており、帰国時に具合が悪かったり不安に思うことがあった場合には、積極的に利用してください。

#### 5 海外の感染症に関する情報の入手（別紙6）

出発前に旅行プランに合わせた情報を入手しておくことが大切です。厚生労働省検疫所及び外務省では、ホームページにより海外各国の安全に関する情報を提供しています。また、空港内検疫所においても、リーフレット等を配置し、情報提供を行っておりますので、積極的にご利用下さい。

# 鳥に 近づくな さわるな

鳥インフルエンザウイルスはヒトにも感染

飼育されている鶏やアヒル等（家禽）で鳥インフルエンザが流行しています。

感染地域等（裏面参照）に出かけるときには、注意して下さい。



詳しくは

国立感染症研究所ホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/>

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/>

## 発生地域から帰国するときの注意点

次に該当する方は、検疫官に申し出てください。

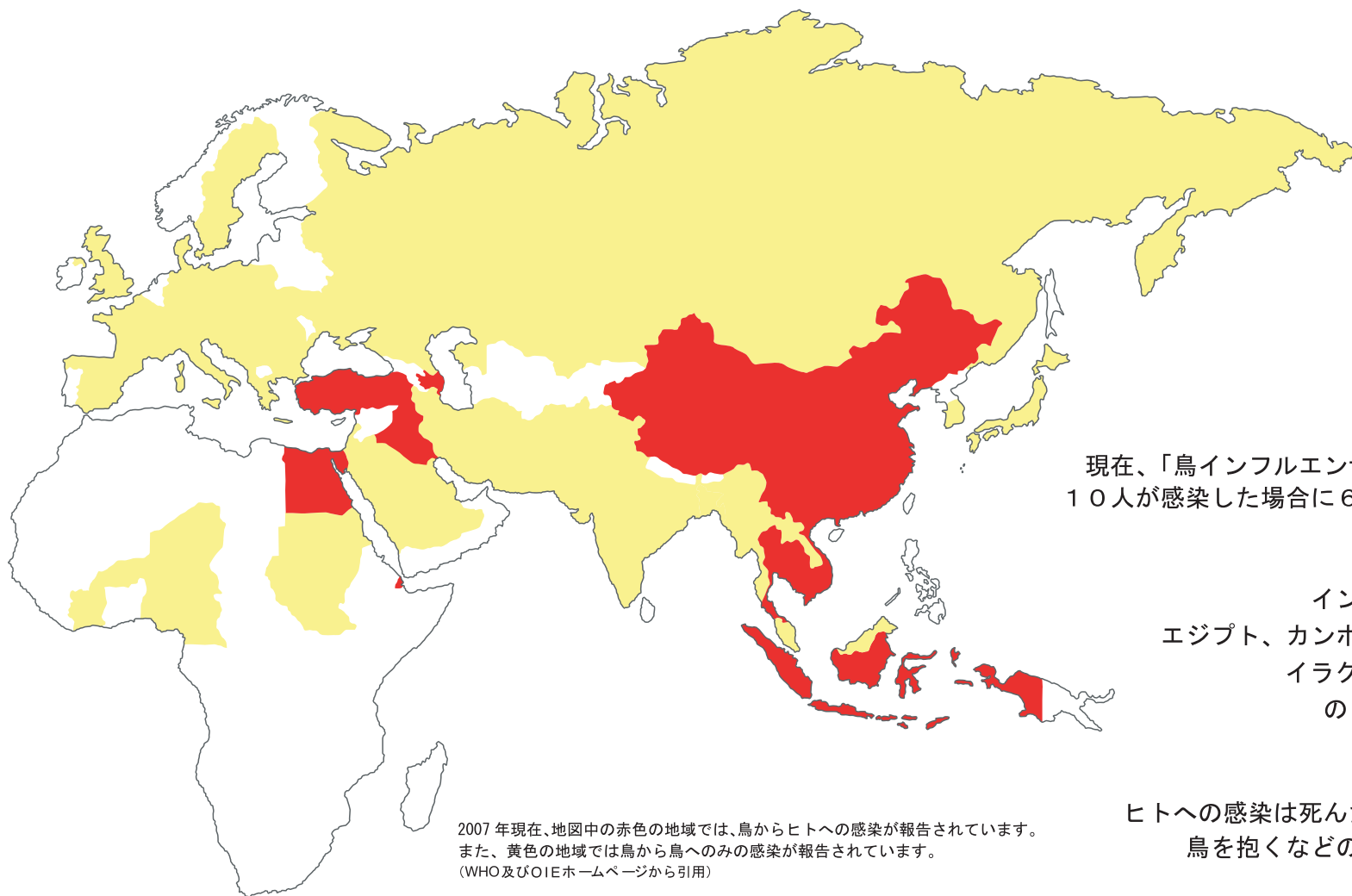
- ・ 発熱とせきがある方
- ・ 鳥インフルエンザに感染した鳥（死んだ鳥を含む）・患者と接触したと思われる方

帰国時には症状が無く、帰宅した後に「発熱」と「咳（せき）」の症状が現れた場合は、最寄りの保健所に相談してください。その際には発生地域に渡航していた旨をお知らせ下さい。なお、発生国からの生きた鳥類や鶏肉などの畜産物は日本に持ち込めません。

お問い合わせ先：最寄りの保健所、検疫所



アジアを中心に、中東、ヨーロッパ、アフリカなど、  
広い地域で発生しています。  
出かける地域の発生状況などを確認しましょう。



現在、「鳥インフルエンザ（H5N1）」はヒトにも感染し、  
10人が感染した場合に6人が死亡する割合になっています。

これまで発症者がでた国は、  
インドネシア、ベトナム、タイ、中国、  
エジプト、カンボジア、アゼルバイジャン、トルコ、  
イラク、ラオス、ジブチ、ナイジェリア  
の12カ国（死亡者数が多い順）です。

ヒトへの感染は死んだ鳥や鳥インフルエンザにかかった  
鳥を抱くなどの濃厚接触によってみられています。

2007年現在、地図中の赤色の地域では、鳥からヒトへの感染が報告されています。  
また、黄色の地域では鳥から鳥へのみの感染が報告されています。  
(WHO及びOIEホームページから引用)

注意事項は表面を参照してください。

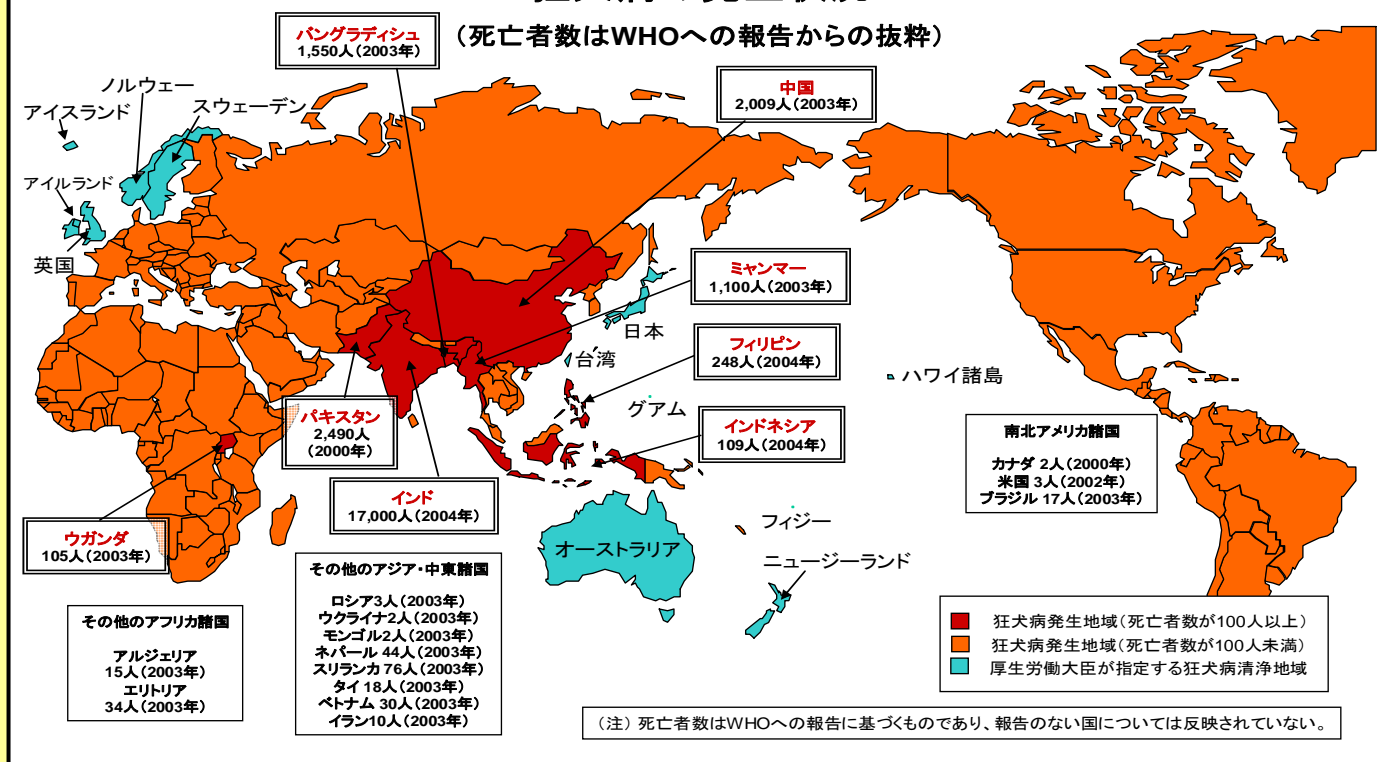
# 犬に咬まれないよう注意!

犬、猫、コウモリ、キツネ、アライグマなどに咬まれると**狂犬病**に感染するおそれがあります。

**狂犬病**は、発病すると**ほぼ100%死亡**します。動物にはむやみに手を出さないようにしましょう。

## 狂犬病の発生状況

(死亡者数はWHOへの報告からの抜粋)



## 【もしも、咬まれてしまったら…】

万が一、渡航先で狂犬病のおそれのある犬等に咬まれたら、すぐに傷口を石けんと水でよく洗い、**医療機関**で、**できるだけ早く傷の処置と狂犬病ワクチン接種**を受けてください。

また、帰国時には検疫所に申し出てください。





### 別紙3 海外で注意しなければいけない感染症

主な感染源	注すべき病気	主な発生地域	滞在地域				主な症状			予防方法	
			リゾート 観光地	都市部	地方の 町や村	森林・原野	発熱	下痢	その他	予防接種	その他
食べ物 水	★ A型肝炎	発展途上地域	●	●	●		●		倦怠感 黄疸	●	十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	★ E型肝炎	世界各地	●	●	●	●	●		倦怠感 黄疸		十分火の通った食べ物を食べる 生肉は食べない
	★ 赤痢	発展途上地域	●	●	●		●	●	激しい腹痛 ときに血便		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	★ 腸チフス	発展途上地域	●	●	●		●		倦怠感 比較的徐脈		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	★ コレラ	発展途上地域	●	●	●			●	嘔吐 下痢による脱水		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	★ ノロウイルス	世界各地	●	●	●		●	●	激しい嘔吐 下痢		十分火の通った食べ物を食べる 二次感染に注意する
事故 ケガ	★ 破傷風	世界各地	○	○	○	○			飲み込みにくい しゃべりにくい	●	野生動物との接触を避ける 転倒やケガに注意する
蚊	★ マラリア	熱帯 亜熱帯地域	○	○	● 夜間	● 夜間	● 高熱・周期的	○	悪寒 冷汗	●	予防薬（飲み薬） 夜間外出を控える 虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用
	★ デング熱	熱帯 亜熱帯地域	● 日中	● 日中	○ 日中		● 高熱		目の奥の痛み 筋肉・関節痛、発疹		虫除けローションの利用 室内での蚊取り線香の使用など
	▲ 日本脳炎	アジア		○	●		● 高熱		昏睡 意識障害	●	水田地帯など田舎に出かける人は 予防接種を実施する
	■ 黄熱	アフリカ 南アメリカ			● 日中	● 日中	● 高熱		頭痛、筋肉痛 悪寒、嘔吐	●	虫除けローションの利用 長袖・長ズボンの着用
	▲ ウエストナイル熱	北アメリカ	●	●	●	●	●		頭痛、筋肉痛 倦怠感		虫除けローションの利用 長袖・長ズボンの着用
動物	■ 狂犬病	世界各地	△	△	△	△	●		受傷部位の痛み 精神的動揺	●	むやみに動物に触らない 犬等の咬傷を受傷後の予防注射
	▲ 鳥インフルエンザ	東南アジア			●		●	○	呼吸器症状		鳥類との接触を避ける 手洗い、うがいの励行
沼や湖河川	▲ レプトスピラ症	世界各地			●		●		悪寒、頭痛、筋痛 腹痛、結膜充血		淡水（川や湖）での 水浴びを控える
	★ 寄生虫症	世界各地		○	●		●	○			衛生的な食堂での食事 こまめな手洗い
★：最も注意をしなければいけない病気 ▲：渡航先、活動内容によって注意しなければいけない病気 ■：その他			●：感染する機会が多いので十分に注意 ○：感染する機会は少ないが注意が必要 △：動物と接触する機会の多い場合には十分に注意				●：よくみられる症状 ○：ときにみられる症状			※ 予防接種は、渡航期間、地域、活動内容により、医師と相談の上考慮する。	

# 蚊に刺されないようにご注意ください!

蚊は、下記の感染症を媒介します。  
虫除け剤や蚊取り線香を積極的に利用し、  
長袖や長ズボンの着用を心がけてください。

特に蚊が多く  
発生する夕方  
から夜間に  
かけて注意!

## 【デング熱】 症状・・・突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹

デング熱は全世界で年間数千万人の患者が発生しており、さらに昨年来より広い地域で大流行が頻発しています。デング熱を媒介する蚊は、日中、都市部にも出没します。時に家の中にもみられます。

また、デング出血熱となった場合、適切な治療が行われないと死に至ることもあります。

デング熱を媒介するネッタイシマカ



デング熱流行地域



## 【マラリア】 症状・・・悪寒、発熱、顔面紅潮、呼吸切迫、結膜充血、嘔吐、頭痛、筋肉痛

全世界で年間3億～5億人の患者、150万人～270万人の死者が報告されています。マラリアを媒介する蚊は、森林地帯を中心に夜間出没します。夜間の外出は注意しましょう。

マラリアを媒介するハマダラカ



マラリア流行地域





## 正しい予防知識

### ☆ 旅行前に

出発前から体調が悪いと抵抗力が落ちることから、出発前から体調を整えることは病気の予防にも大切なことです。

### ☆ 旅行中に

1. 水は必ず沸かして飲むか、ミネラルウォーター（有名なブランドのもの）を飲みましょう。
2. 搾りたてのミルクやお手製の乳製品を口にするのはやめましょう。
3. 川や湖、沼などの水辺には寄生虫がいる場合があります。淡水での遊びやスポーツは、注意しましょう。
4. 蚊などに刺されてうつる病気は多くみられます。ダニ、ノミ、シラミも狙っています。服装に注意し、虫除けスプレーや線香も積極的に利用しましょう。  
特に熱帯地域では、蚊が媒介するマラリアやデング熱が流行しています。マラリアを媒介する蚊は、森林地帯を中心に夜間出没します。夜間の外出は要注意！  
デング熱を媒介する蚊は、日中、都市部にも出没します。時に家の中にもみられます。
5. 動物（特に野生動物）は狂犬病をはじめ、さまざまな病気を持っている可能性があります。むやみに動物に近づいたり、触れたりするのはやめましょう。
6. こまめに手を洗いましょう。手についた病原体は、目、鼻、口などのいろいろな所から体内に入ります。特にトイレの後や食事の前は重要です。

### ☆ 帰国後に

検疫所では、健康相談を受け付けています。マラリアやデング熱などの検査も行うことができますので、積極的に利用してください。

かかってもすぐに症状が現れるとは限りません。帰ってしばらくしてから発症することもあります。発熱や下痢など具合が悪くなってきたら、速やかに医療機関を受診するか、検疫所に相談してください。

その際には、旅行先や滞在期間を必ず申し出てください。

## 海外の感染症に関する情報提供サイト

### 1. 世界各地の感染症発生状況

- 厚生労働省検疫所(海外渡航者のための感染症情報)ホームページ  
(<http://www.forth.go.jp/>)
- 外務省海外安全ホームページ > 感染症関連情報  
(<http://www.anzen.mofa.go.jp/sars/sars.html>)

### 2. 感染症別の詳細情報

- 厚生労働省検疫所(海外渡航者のための感染症情報)ホームページ > 感染症別情報  
(<http://www.forth.go.jp/>)
- 国立感染症研究所 感染症情報センターホームページ > 疾患別情報  
(<http://idsc.nih.go.jp/disease.html>)

### 3. 予防接種に関する情報

- 厚生労働省検疫所(海外渡航者のための感染症情報)ホームページ  
(<http://www.forth.go.jp/>)
- 外務省ホームページ > 渡航関連情報 > 在外公館医務官情報  
(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>)

### 4. 渡航先の医療機関等情報

- 外務省ホームページ > 渡航関連情報 > 在外公館医務官情報  
(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>)